

2021年度 シラバス

科目名 教育社会学特論 (R3 認定通信)	単位数 4 単位	担当教員 石原 朗子
テキスト 1) 耳塚寛明著『教育格差の社会学』有斐閣, 2014 2) 松岡亮二著『教育格差 階層・地域・学歴』ちくま新書, 2019		
科目の概要 教育や何らかの事象を測る際、そこに個々の違い(差異)があります。「差異」に優劣がつき、その差異が問題とされ、その問題は是正されるべきと見なされた時、その「差異」は「格差」と呼ばれます。 本科目では、現代の教育を捉える上で「教育格差」という観点を切り口に考えます。前半では、教育格差という問題にまつわる教育社会的な考え方を学修し、後半では、教育格差の各学校段階別の実態、学校間での関わりを学修していきます。 最終的には、「自身の身の回りにある教育格差の問題は何か」を考え、自身で何らかの解決の糸口を見だし、または実態に基づき、自身にできることを考えていきます。		

I 科目の目的・ねらい

1. 教育格差をめぐる基礎概念を理解できる。
2. データに基づいて教育格差を考えることができる。
3. 各学校段階における教育格差の実態を理解し、その関連性を理解できる。
4. 教育格差への対応について自分なりの考えを持ち、表現することができる。

II 授業計画と評価

各回のテーマと書籍における該当部分、学修上の留意点は以下の通りです。

1. 教育における格差とは何か
テキスト1 (『教育格差の社会学』) の第1章を読み、「格差」や「メリトクラシー」といった基礎概念を知る。
2. カリキュラムと学力について考える
テキスト1の第2章を読み、学校知識の特色や、ペダゴジー論を学ぶ。その上で、後期近代における学力について考える。
3. 教育格差を考える① - 機会均等の観点から -
テキスト1の第3章を読み、高等教育をテーマに教育の機会均等の問題を考える。
4. 教育格差を考える② - 学校から職業への移行 -
テキスト1の第4章を読み、日本的移行の特徴と、学校から職業への移行における「社会的排除」の問題を考える。

5. 社会化と逸脱, 階層

テキスト1の第5章を読み、「社会化とは何か」を考え、日本の子どもや若者の社会化や逸脱の状況の変容を学び、それらと階層の関わりを考える。

6. 格差をめぐる視点—ジェンダーと教育, 国際開発と教育—

テキスト1の第6・7章を読み、ジェンダー格差の問題や、発展途上国と教育格差の問題を考える。

7. 教育格差を埋める視点①—教育格差と福祉—

テキスト1の第8章を読み、「子どもの貧困」の問題を考え、困難を抱える子供への福祉制度や、そこにまつわる課題を考える。

8. 教育格差を親の学歴と子の学歴の関わりからの視点から考える

ここまでの学修内容を参考に、テキスト2（『教育格差』）の「はじめに」の8つの質問への答えを考え、その上で、テキスト2の第1章を読み、親の学歴と子の学歴の関係、出身地域と教育格差の関係を概観し、教育格差の趨勢を理解する。

9. 学校段階別の格差の実態①—幼児教育—

テキスト2の第2章を読み、幼児教育において親学歴の違いにより格差が生じている部分はどこかを検討する。

10. 学校段階別の格差の実態②—小学校—

テキスト2の第3章を読み、小学校での教育格差の実態を以下の視点で捉える。

- ・経済資本、文化資本、社会関係資本と格差との関わり
- ・経済資本（あるいは社会経済的地位）、文化資本、両親大卒割合の切り口で見た学校・地域の格差

11. 学校段階別の格差の実態③—中学校—

テキスト2の第4章を読み、中学校の教育格差の実態を以下の視点で捉える。

- ・小学校と中学校の学力格差の関係性
- ・受験と格差の関わり
- ・社会経済的地位、文化資本、公立と私立、公立学校間、両親大卒割合、大学進学期待の点で見た学校・地域の格差

12. 学校段階別の格差の実態④—高等学校—

テキスト2の第5章を読み、高等学校の教育格差の実態を以下の視点で捉える。

- ・高校における学校間格差の意味とその理由
- ・学校ランクと学校別の社会経済的地位の分布の関連性と進学期待・通塾率等の関係
- ・学習行動、生徒「文化」、親の支援や教師の期待の学校間格差

13. 制度により拡大される高校の教育環境の格差（第5章）

テキスト2の第5章までの復習をし、第6章を読むことで以下の点を考える。

- ・義務教育までの格差と高校での格差のつながり
- ・日本の義務教育は教育格差の視点で見た時、世界的に特徴的であるか否かと理由
- ・学力格差や大学進学期待格差の日本の特徴とはどのようなものか
- ・効率を追求する高校教育制度のメリット、デメリットはどのようなものか

14. 未来の社会に向けた建設的な議論のための4カ条

テキスト2の第7章前半を読み、以下の点を考える。

- ・教育における平等と自由の両立の難しいとされるがそれはなぜか
- ・同じ扱いだけでは格差を縮小できないと考えられている理由はなぜか
- ・教育制度の選抜的機能の持つ課題は何か
- ・教育政策には意図せざる帰結がありうるとはどういうことか

15. 教育格差を埋める視点②ー教育格差を研究すること・教育することー

テキスト2の第7章後半と「おわりに」を読み、「教育格差」を研究すること、教育することの意義や必要性は何かを考える。さらに、テキスト1・2の全体の復習を通じて「自身の身の回りにある教育格差の問題」を1つ考え、それに対する処方箋を考える。

科目修得試験

評価については、レポート 50%、科目修得試験 50%の割合で行う。

Ⅲ学修の流れ

1. 指定のテキストを読んで学習を進める。学習の際には、本学修指導書に書かれた各回の「学修上の留意点」に沿ってまとめてみるとよい。
2. レポートを書き、学生ポータルサイトより提出する。
3. 科目修得試験の申し込みをする。
4. レポート合格後、科目修得試験を受験する。

V参考文献

志水宏吉著『「つながり格差」が学力格差を生む』亜紀書房、2014年
志水宏吉ほか著『調査報告「学力格差」の実態』岩波ブックレット、2014年

VIその他

本科目では、「教育格差」をテーマにあげます。教育問題は1つの語り口で言い尽くせるものではありません。したがって、テキストを読む際に、盲目的に読むのではなく、批判的に読む、あるいは、自分の周りの状況を考えながら読むと、より理解が深まり、また教育課題への取り組みも変わってくると思います。本科目をきっかけに、教育課題についての本に興味・関心を広げていただけると嬉しいです。